

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



2025年春・80号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず  
・言いたいことはハッキリ言おう

発行/馬場 雅夫

FAX: 06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL: <https://lifecrossing.ne.jp/>

E-mail: [info@lifecrossing.ne.jp](mailto:info@lifecrossing.ne.jp)

## CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・  
自分のことを書いています。

視点 Life Crossing

柏崎刈羽原発は廃炉にすべし

外山産業グループ会長 外山 晴一… 2

戦後80年、新年に想うこと

衆議院議員 菊田 真紀子… 3

人々の小景② 木下 恵介

- 本当の人間を写し撮った映画監督 -

鎌倉 市川 隼… 4

父と戦争 新潟県三条市 丸山 善三… 5

SNSでデマがはびこる?

ユーチューブの勧め 貴澄 ハル… 6

日本人は、世界は、どっちに進む

SNSで付和雷同人か、独立自尊の個人か

東京 三田 栄孝… 7

なぜ今、政府による

「朝鮮人虐殺の検証」が必要なのか?

元衆議院議員 初鹿 明博… 8

仏像をめぐる冒険 見仏記

大仏師・松本明慶師の工房・美術館を訪ねて

兵庫 脇 弘招… 9

政権交代前夜

野党が示すべき対抗軸はこれだ!

埼玉県新座市 高木 けんすけ… 10

埼玉・宮城路線バス乗り継ぎの旅

鋼鋳物技師 埼玉県所沢市 田口 重久… 11

(続)多数決は民主主義か～

風と土の民主主義

信州小海町 地域づくりボランティア八峰村

村長 渡辺 均… 12

造物主からの伝言 - その七 -

笑いの効用

北里大学名誉教授 馬淵 清資… 13

幕末の会津藩主が

その生涯を悔やむ(下)

松平肥後守容保独白… 14

会津・容保・西郷邸と私の想い

原野 通有… 15

余録/編集後記…………… 15

首都を襲う巨大水害対策

地方創生・防災省に期待

お江戸の舟遊び互版発行人 中瀬 勝義… 16



### 日本で唯一のラーメン博物館(新横浜)

1994年開業の新横浜駅前ラーメン博物館の地下風景です。昭和30年代を再現したレトロなラーメン屋街で、多くのラーメンファンがお気に入りのラーメン店目指して列を作っています。週末・祝日のみならず平日でも多くの人が来場、いまでは年間約80万人が訪れる観光名所となっています。

毎号表紙を飾る写真を募っています。単なる風景ではなくユニークなものを歓迎します。

## 視点

Life Crossing

## 柏崎刈羽原発は廃炉にすべし

外山産業グループ会長

外山 晴一

原子力規制委員会が柏崎刈羽原発の再稼働禁止命令を解除しました。岸田内閣のときから、政府は「原発復権」に政策を変更し、再稼働するために、避難道路や屋内避難施設を整備すると言っています。再稼働に向けた動きは加速しています。再稼働は県民の同意だけになってきました。私は、柏崎刈羽原発は再稼働するべきでなく、廃炉にすべきと思います。理由は、原発は危険だということです。それと、発電する電力は全て首都圏で消費され、供給圏と需要圏の乖離、いわゆる「ねじれ」も大きな問題です。メリットは首都圏だけが享受し、新潟県はリスクそれも深刻なリスクだけを負うからです。東京はじめ首都圏の夜はイルミネーションで光り輝いています。AI産業ははじめ首都圏の企業はお金儲けのた

め、安い電気を大量に欲しがって原発の再稼働を切望しています。でも、原発があり、危険な新潟県には進出して来ません。一方、新潟県民は心配しながら避難訓練をし、雪を見ては絶望しています。首都圏の人は新潟県民がどのような気持ちで、内部被爆を予防・低減すると言われているヨウ素剤を子供たちに配っているのか知っているのでしょうか？

原子力規制委員会は戦争のリスクをチェックしていません。現実には、行われているウクライナ・ロシア戦争では原発が標的になっています。戦争が現実になっていく現在、戦争リスクをチェックしない原子力規制委員会の結論は全くナンセンスです。ウクライナを攻めているロシアは日本の隣国です。そのロシア

軍が作成した日本の攻撃対象リストの中には原発も入っていると報じられています。同じく日本海を挟んだ隣国の北朝鮮は、日米韓を仮想敵国として、核爆弾を持ち、ミサイル実験を繰り返しています。原発の核廃棄物の処理方法がまだ決まっています。また、福島原発事故では核燃料デブリを全部取り出す日程は全く立っておりません。これでは火事になっても火を消せないのと同じです。原発のトータル管理技術やシステムは未確立で、原発は危険そのものです。

政府が言うような避難道路を造っても一斉に対象県民全員が避難できないのは子供でも知っています。万一、避難できても、全てを置いて身一つで逃げるのが精一杯です。県民を待っているのは地獄の難民生活です。避難するよう

な事態になれば、新潟県の企業はほとんどが倒産し、新潟県は壊滅します。

原発を廃炉にするには何十年もかかります。廃炉にすれば、この地区には廃炉ビジネスの仕事が生まれます。それだけで地域経済は非常に活性化します。新潟県は最新の廃炉技術を集積して、新潟県を世界でトップの廃炉技術の集積地にするべきです。世界には廃炉にするべき原発が多くあります。高度な廃炉技術は世界中に輸出できます。

柏崎刈羽地区では風力や太陽光などの自然エネルギーと水素や天然ガスを使って発電をし、現在の送電線を使って首都圏に電気を販売することが出来ます。柏崎沖には豊富なメタンハイドレートがあると言われています。天然ガスを使って出るCO<sub>2</sub>はCCUSと言われているCO<sub>2</sub>回収再利用技術によって、回収し再利用することが出来ます。新潟県はCCUSや水素、自然エネルギー、メタンハイドレート実用化などの技術集積地を目指すべきです。このように柏崎刈羽原発は廃炉にした方が新潟県も、柏崎刈羽地

区も未来産業を確立して発展することが出来ます。

再稼働は新潟県を首都圏のエネルギー供給のための植民地とするだけで新潟県の発展は望めず、世界一巨大な柏崎刈羽原発が爆発すれば新潟県のみならず日本は終わりです。



柏崎刈羽原発（柏崎市HPより）

右写真「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」は「自治体に条例の制定を請求できる141092号」を集め記者会見を行い、知事に県議会で条例の制定するべく求めた。その為の議会が今年4～5月頃開催見込みである。原発是非の県民投票が実施されるかどうか、注目されている（編集部）

## 戦後80年、

## 新年に想いを

衆議院議員 菊田 真紀子



1988年、高校を卒業した18歳の時、中国の黒竜江省ハルビン市の黒竜江大学に2年間、語学留学した。新潟県と黒竜江省は1983年に友好協定締結をし、留学生の派遣や受け入れを行っていたが、当時の中国は「未知の国」「謎の国」だった。中国残留孤児が、実の親や兄弟、親戚を探しに来日していた時代に、好んで中国に行く人は少なかった。我が郷土の田中角栄元首相は自身の戦争体験から「日本と中国は不幸な戦争をしたからこそ将来は仲良くしていかなければならない」と説き、日中国交正常化を成し遂げた。田中首相と中国の周恩来首相による調印式の映像は私の記憶に強烈に焼きつき、隣国である中国のことをもっと知りたいと思ったのが留学のきっかけである。

期待感と好奇心をもって日本を旅立ったのだが、あの広大な大地に降り立った日、絶望に変わった。空港から学校の寮までの舗装されていないデコボコ道には、車よりもロバや馬が引く貨車のほうが多く、人々はみな同じように黒っぽい人民服を着て、自転車をこいでいた。中国の暮らしは貧しく、あらゆる物が不足し、不衛生だった。ハルビンは冬になると氷点下20度、30度の日が数か月続く。ストーブやヒーターのよくな便利な暖房器具はなく、寒さが厳しい夜には厚着をして布団にくるまって耐えた。寮の温水シャワーは何が原因なのかわからないが、たびたび断水し身体を洗えないこともよくあった。スーパーやコンビニはなく、欲しい物が手に入らない。私が最初に覚えた中国語は「没有!」(ない!)だ。たまに運よく欲しい商品を見つけても、不愛想に投げてよこす店員の態度の悪さに腹が立った。中国に来たことをひどく後悔した。

半年くらいが経ち、徐々に中国語で会話ができるようになってくると、少し自信がついて街に出かけたり、中国人の友だちもできた。市場では、ふっかけてくる商人と価格交渉で粘り勝ちした時は嬉しかった。週末になると、中国人の友だちから餃子づくりを教えてもらい、一緒に食事を楽しんだ。白飯に餃子をおかずにして食べる日本人を中国人は笑い、餃子は主食だと言って数十個も食べる中国人に驚き、食文化の違いを肌身で感じた。



近影～「どんど焼き」にて  
(新潟・冬の伝統行事)

冬休みにはバックパッカーで各地を旅した。十数時間も火車(列車)に揺られて疲労困憊しているのに、外国人の私を珍しがり興味津々に話しかけてくる。「どこから来たのか?」「飯食ったか?」等々。日本人の感覚にはない近すぎる距離感に面食らう。

旅先で一番しんどかったのは劣悪なトイレだ。不衛生極まりなく、排せつの気力が萎えてしまうこと度々だった。

1989年の春、天安門事件が起きた。だんだんと私の住む地域にも波及し、空港が閉鎖されるのではないかといった噂が流れたりして、日本人留学生は身の安全のため帰国することになった。しばらく平穏な日本でのんびり過ごしていたが、騒動が治まった頃、私は再びハルビンに戻った。寮のお世話係りのおばちゃん、餃子づくりを教えてくださいました友だち、学校の先生が「待っていたよ!」とハグしてくれた。中国人の体臭が久しぶりに鼻についたが、なぜか懐かしく、嫌気はしなかった。

私の人生において、中国での2年間の生活は何物にも代えがたい経験だった。日本の25倍もの広大な国土で、12億を超える中国人を敵にしておく戦争なんかしたものだと思ひ返し思った。あの頃の中国と今の中国ではまったく別の国のような変貌ぶりだが、今、あらためて政治の究極の目的は戦争のない世の中をつ

くることだと思ふ。ここ数年、戦争の足音が身近に感じられるようになっていく。1月、米国第一主義を掲げるトランプ大統領の政権が再びスタートした。関税強化策等に関して、習近平国家主席は「やられたら必ずやり返す」と公言し、覇権主義的な動きを強めようとしている。今年は戦後80年。世界の国々が共存共栄していくことの難しさを痛感しているが、それでも相互理解と相互信頼を深める努力をあきらめずにしていきたい。



常任幹事会にて～野田代表(スピーチ中)、代表右隣に小川幹事長、さらに菊田真紀子議長、左に長妻代表代行の顔が見える

プロフィール：新潟2区連続当選8回、立憲民主党常任幹事会議長、次の内閣で元文部科学大臣、昨年自民党系候補にダブルスコア、21年、前三条市長に勝利(開票日に外交官の夫飯田慎一氏急逝)17年、現評論家金子恵美に勝利、03年民主党公認で初当選、95年加茂市議選に全国最年少25歳でトップ当選2期



連載  
第27回

## 木下 恵介

本当の人間を  
写し撮った映画監督

鎌倉在住 市川 隼

文化としての映画芸術に対する評価が、米国や西欧と比較して日本では遥かに低いとされ、日本の映画史の中で、評価の低さに義憤を感じて来た映画監督が幾人もいたと思われるが、1969年に四騎の会を結成した、黒澤明（1910-98）、木下恵介（1912-98）、市川崑（1915-08）、小林正樹（1916-96）の四人は、その代表だったといえるのかも知れない。

黒澤と並び称される程評価の高い映画監督であり、黒澤が『姿三四郎』で監督初作品を発表した1943年に木下も『花咲く港』を発表し、新人監督を対象とした「山中貞夫賞」を二人揃って受賞した。黒澤の『七人の侍』が世界を風靡した1954年、木下は『二十四の瞳』を世に問い、その年のキネマ旬報ベストテンには、3位にランクされた黒澤の『七人の侍』を抑え、木下の『二十四の瞳』と『女の園』が夫々、1位・2位に選ばれた。

木下はNHKの番組『あの人に会いたい』で、「ロマンチックな少年時代に、空想した甘い世界を映画に展開したい野心を持っていった」と自らを語り、映画作りの信念として、「作家は、何時の時代にも本当の人間を描かなければいけない」とも語っている。



木下恵介監督

木下は、多様な49作品の映画を制作した。抒情的な作品、喜劇的な作品、更には社会的な作品だが、1944年制作の『陸軍』では、息子を兵士に送る涙を流す母親を描き、日本最初のカラー作品となった1951年制作『カルメン故郷に帰る』では、里帰りした踊り子で揺れる村人達のざわめきを喜劇に描いた。

1979年制作『衝動殺人息子よ』では、息子が通り魔殺人に遭った父親が、殺人者への憎しみを抑えながら、公的な犯罪被害者給付金制度を成立させるに至るまでの、老父の執念に光を当てた。

木下恵介記念館（浜松）



山梨県出身作家深沢七郎の代表作である『楢山節考』や『笛吹川』は、虐げられた貧しい農民の風習や家族の歴史を描いた作品だが、木下は巧みに映画に取り上げて、農民の心の情や移ろいを映像に写し撮った。

木下恵介記念館（浜松）

木下恵介記念館（浜松）

# 父と戦争

## 新潟県三条市 丸山 善三

農家の次男坊の父は、地元

(新潟県長岡市)の商業高校を卒業すると外地(台湾)の精糖会社に就職して開戦と共に現地で陸軍に志願し兵役した。終戦後は、「ポツダム少尉」として任官し内地に帰還した。日本専売公社(現在、JT)に就職すると当地(新潟県三条市)に婿入りした。これから語る話は、私が小学校の最終学年の夏休みに父と父の実家に行った時に体験した。生涯忘れることが出来ない出来事である。

「オイ、ここを覗いてみようか……」

小柄な父が背をかがめながら私に言った。八月の昼下がり、父と私は、長岡市の郡部にある古い校舎の廊下の外側に立って居る。その場所からは、校舎全体の床下が見える。父は、わずかに床下の空間が臨める隙間からある一点を指さしている。私は、父の示

した隙間を覗き込みその位置に目をやった。わずかに夏の陽光が差し込んでいる。私達がようやく覗いている空間は、地面から五十センチ位の隙間が開いている。やぶ蚊が耳元で纏わりつく。わずかに山の匂いを感じる。隙間から見るとその視線の先には広い場所が見て取れる。二人は、言葉もなくそこを見続けている。

どれ位見ていたであろうか。

「怖くないか……」

父が尋ねた。

「別に怖くなんかないけど……」

咄嗟の私の返事を受けて父は、私の方に顔を向けるところ切り出した。

「この学校の校舎は、古いくど父さんが出た小学校だ。思い出が沢山あるんだ。今見ている処は、遊び場だった」

私は、早口に話す父に促されたかのように畳みかけるように質問した。

「怖くなかったの、一人

だったの、それとも友達も一緒？」

父は、すかさず答えた。

「怖くなんか無い。父さんと一緒にいた友達がいたから。江口君だ」

「江口君は、お父さんの一番の友達だったんだね。大人になった今でも会っている？」

団員だった。自宅の消火活動は、そっちのけで消火活動をしていたらしい。自宅は跡形もない。当時から頑張り屋だった」

父は、早口にその時の情景を話した。私は、息が継げず、生唾を飲んだ。しばらく、会話が出来ない重苦しい空気がその場を支配した。

「行こうか……」



父が発したその言葉で私は我に返った。ひどく長い時間そこにいたようにも感じた。すぐさま私達は、その場から離れ、歩き出した。学校の裏門を出せばらしくして学校の脇に連なる裏山の前に着いた。私は居たたまれずにその場にしゃがみ込んで。炎天下に堪えかねたせいであろうか。地面に目を落としているしかできない。父は、直ぐさま言葉を発した。

「帰るぞ」

私は、歩きだした父の後姿を追うことが精一杯であった。

その晩父は、実家の主と好きな酒を飲み交わして過ごしていた。その夜は、広い客間の真ん中に吊るされた着い蚊帳の中で父と私は布団を並べた。父の枕元の方に目をやると穏やかに眠っている。時折、規則的な鼾が聞こえる。私には、その晩が、特別に静かな夜に感じた。そして、まんじりともせずに一夜を過ごして明け方を迎えた。

この出来事から随分と年月が過ぎた。小学校は、統廃合で無くなった。校舎は区画整理で跡形もなく取り壊された。父の死後、遺品を整理していたら父の日記帳に茶封筒が挟んであった。その中には、父の小学校時代の卒業写真らしきものがあつた。子どもたちは、丸坊主とおかつぱ頭で神妙な顔つきで写っている。父の隣には、やさしい顔をした小柄な少年が立っていた。彼が江口君なのだろうか？今になっては、知る由もない。しかし、きっと父と江口少年は、黄泉の国で再会していることであろう。

(越後文学同人)

# SNSでデマがびびる？ ユーチューブの勧め

貴澄 ハル

昨年、兵庫県知事のパワハラ・おねだり疑惑が世に出たとき、当初は日本人の誰もが「斎藤元知事はとんでもないパワハラ野郎・おねだり君。さらにこいつのお陰で自殺した職員もいる」と思っていました。私もそんな一人で、自身のブログで斎藤知事を「前は人でなしか！」と詰っておりました。※その後反省しお詫びのブログを掲載。

しかし一部の人が「腑に落ちないところがある」と疑問を投げかければ、内部告発が続いて、徐々にわかってきたことは

「斎藤元知事への糾弾は、利害関係を食ってきた反対派（政治家・公務員）が結託して、デマを捏造し拡散したものではないか」ということでした。※この

原稿執筆時（R7年1月）で真相はまだ解明されていません。これらは、一切大手メディア

ア（テレビ・新聞・ラジオ）では取り上げられず、SNS（特にユーチューブ）を通じて明らかにになりました。

それを知った多くの兵庫県民は怒り心頭し、判官びいきも手伝って、熱狂的な斎藤元知事の応援につながったのです。

利害関係者は、自分たちの利益を守るためなら、平気で人を、しかもたった一人を陥れるのですね。これに協力したマスコミも同罪と思います。



昨今、大手メディアは正義と信じる報道を一方的に流

し、自分たちに都合の悪い事実は敢えて放送しなくなつた。その顕著な例が、今回の兵庫県知事パワハラ・おねだり疑惑でしょう。SNSがない時代であれば、間違いなく斎藤知事は葬り去られていたと思います。

SNSには確かに嘘や偽情報がたくさんあります。しかしインターネットが世に出て二十余年、大きく時代は変わりました。テレビ・新聞などで取り上げない、あるいは敢えて無視されるような事実など、草莽のユーチューバーからプロの専門家まで、我々が知りえない情報を提供してくれるようになりました。

さてそれではなぜプロの専門家や大手メディアまでユーチューブに動画をあげるようになったのか。

「テレビでは言えない真実をユーチューブで言えるから？」

違います。それもあります。が、もつとも大きな理由は「儲かるから」です。大手メディアまでユーチューブに番

組提供するようになりました。ただ、いくら儲かると言っても、動画を投稿しただけで一円にもなりません。既定のチャンネル登録者数や閲覧時間を達成して、初めて収益が可能で、よって生活がかかっていく動画作成者は俄然必死になります。おもしろくなければ誰も見てくれないので「儲からない＝飯が食えない」からです。

ユーチューブが世に出た頃、いい加減なデマ情報や明らかな嘘がたくさんありました。しかし現在そんなことをしているのは誰もチャンネル登録してくれませんかし閲覧数も伸びません。



いい加減な情報・デマと思われるような動画に関して、コメント欄に「その情報

源はどこですか?」「いい加減なことを言わないでください」「それは明らかに誤情報です」などが並び、多くの視聴者に密告されるような悪質な動画に関しては、ユーチューブ側が削除します（＝収益にならない）

「大手メディアの情報を信じるな」とは言いません。しかし一方的にテレビや新聞で流されるニュースを信じるのではなく「大手メディアが伝えていない事実もあるのではないか」と疑ってみる。そして選択肢の一つとしてユーチューブを活用する。さらにユーチューブさえ疑ってみる。

そうしていくうち、何が正しく何が嘘なのか、より洗練された見識となっていくはず。そんな時代になっていくのです。間違いなく新しい視点で世の出来事を見るようになると思います。

「SNSには嘘や偽情報が多いので見ない」と結論付ける前に、心をさらにして（先入観や偏見は一端棚上げにして）、SNS（特にユーチューブ）に向き合ってみてはどうでしょう。

## 日本人は、世界は、どつちに進む?! SNSで付和雷同人が、独立自尊の個々人か?!

東京 三田 栄孝

いやあ、凄く凄く。地方の一市長である石丸氏があれよあれよという間に、まさか都知事候補の蓮舫を抜いて2位

なんて！更に驚いたのは全県議から不信任を受け、駅前で孤独に一人挨拶していたはずの斎藤知事が復活するなんて。SNSの力・影響力には感心だけでなく脅威を感じる。

若い頃、ある勉強会での私の体験。進行係の先生が受講生に選択を迫った。彼が提起した事象問題で皆がどう対応するかを問うたのだ。同時に先生は自分の意見を声高に示唆していた。100人近い生徒の多くは先生の意見と同じ答えに手を挙げた。私はふと違和感を覚えた。先生の説に同意できないのだ。よって私を含め数人が他の意見に手を挙げた。進行係の先生は我々の説に厳しい批判を浴びせたので、さらに二、三人が先生の意見に傾いた。そして最後に先生は、私を含むわずか数名

を指して、穏やかに「皆さん、正解は少数意見ですよ」と。

大阪維新の初期、ある大阪市の女性候補を自宅に招き、話を聞いた。「橋本知事は素晴らしい。あの人を信じて付いていく」と熱っぽく語ってくれた。若い純真な姿をそこに見た。そう言えばかつてはマスコミが『今太閤』と田中角栄をもてはやしたが、広大な目白の田中御殿の成り立ちや彼の金権体質には触れずじまいだ。立花隆個人が暴いていなければ角栄神話はまだ拡散していたらう。いや、小泉純一郎は「自民党をぶっ潰す」と世論を煽り、「解散と刺客」で大勝、そして郵政民営化を実現させた。古きは岸信介首相が「デモに出ない『もの言わない多くの国民』が私の味方だ」と強調した。電車内では殆どの人がスマホ片手だ。もはやスマホ全盛時代、しかもこの世論は受け身だけでなく無料で友人・

知人にいやアドレスさえ知ればより大量の人に伝達できる。

電車内では皆さんスマホ片手に



石丸氏はさほど政策を語らなかつた。小泉は自民党を決して壊さなかつた。橋下は『大阪都構想』と大阪人の東京対抗感情に火を付けた。玉木国民民主党首は『103万円の壁』と甘言で勝利した。

**我々はワンフリーズで国民を煽り操れる危険を感じなければいけない。**

私はスマホの便利さ・影響力を否定はしない。しかしSNSのワンフリーズで充分な情報は得られない。「無責任金儲けの一面が強い。けつして踊らされるな」と警告したいのだ。ヒトラーも選挙を通じて議

会を制した。そしてヒトラーユーゲント等で純粋な若者を駆使し、反ユダヤ感情を煽り、独裁者になれた。止まれ！

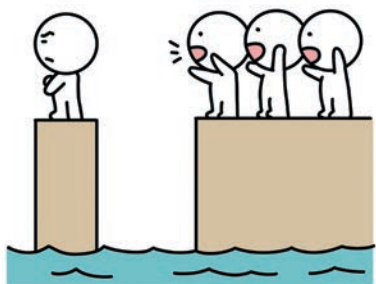
全ての国民が諸手を挙げて支持したわけではない。私の父も「この戦争は負ける」と言いながらも、比島に引つ張られて捕虜になった。母も愛国婦人会に責められ、従軍を拒否する為に看護婦免状を返上して、黙って敗戦まで待つしかなかった。学生も多くは駆り出されたが神風特攻に参加したのは一部だ。

SNS等に付和雷同して納得・満足する人が現れて、時の流れを作る。彼らに共鳴する者が、大きな顔をできる立場で勢いを付ける。警戒すべきは5%の熱心な協力者がいたら「社会を、国を、動かせる」ということだ。5%が周りに伝播して5%の支持者を作る、10%が動けば更に5%の同調者を獲得できる。15%もいれば充分だ。多くの人は時流に流される大人しい人々だ。もの言わぬ人々がいつの間にか増えてしまう。

抵抗する勇氣者は15%から攻撃されて次第に反対論は声

れて消滅する。橋下徹氏が巧みな弁舌で今のSNSを駆使できていたら大阪府民をいや国民を思うがままに動かしていたらう。過去も現代も日本も世界もそうだ。斎藤氏を再選させたのは四人に一人の県民だが、結果は全兵庫県民が再選させたことになる。トランプやイーロンマスクも然り。

困ったことに単純な言葉、スローガンに大衆は動かされる。或いは民主主義とはそういう弱いものかも知れない。それを抑えるには多くの国民が学んで、冷静な判断ができるようにしなければいけない。ワンフリーズに、そしてSNSに踊らされず、自分の頭と心で考えて行動する人物であれ。私は独立自尊の人でありたい。



# なぜ今、政府による「朝鮮人虐殺の検証」が必要なのか？

元衆議院議員 初鹿 明博

関東大震災の際に朝鮮人が井戸に毒を入れた等の流言蜚語が流れ、多くの朝鮮人が虐殺されたことは周知の事実である。

小池百合子都知事が朝鮮人虐殺追悼式に追悼文を出さなかったことで、朝鮮人虐殺に関する質疑が国会でも行われるようになった。

この間の関東大震災時における朝鮮人虐殺に関する政府の国会答弁の変遷を見てみよう。

「政府内に事実関係を認める記録が見当たらないから答えるのが困難」(2017年11月10日、質問主意書 初鹿明博)

「文書自体からは事実関係について確定的に述べることが困難である」(2023年11月9日、参議院内閣委員会 石垣のりこ)

「作成経緯が明らかでないから、事実関係について確定的なことを申し上げることは困難」(2024年4月9

日、参議院内閣委員会 石垣のりこ)

以上の通り、微妙に変わってきていることが分かると思う。

この間、国立公文書館や外交史料館に保存されていた文書を突き付けられ「記録がない」とは言えなくなった為、「確定的に言えない」という苦しい言い訳に変えたのだ。この理屈でいうと行政文書を保存している意味がなくなってしまう。



右写真：外交史料館が保有している朝鮮人虐殺に関する文書のファイル。「変災及び救済関係雑件」-「朝鮮人問題及具反響」の文字を読む。

我が国は文書主義をとって、行政文書として残っている事実が確定した事実でなければならぬ。でなければ、

将来、行政の活動を検証する術がなくなってしまうからだ。

国家の根幹を揺るがすような文書主義すら否定する酷い答弁であることは間違いない。

朝鮮人虐殺がなぜ起こったのか。朝鮮人が井戸に毒を入れたという流言蜚語が広まり、それを信じた民衆が突発的に犯行を行ったと考えている人が多い。「半分は当たっているが、半分は違う」と私は考えている。

大震災という異常事態に民衆も混乱状態に陥り、自分の身を守るために仕方ない行動だったと考える人もいるかもしれないが、自分に置き換えて考えてみよう。

今、自分の住んでいる地域で大規模災害が発生し、同じようなデマが流れて来たとして、実際の犯人でもない単に民族が同じだけの人を襲って殺すだろうか。殺さないはずだ。

つまり、大震災という異常事態に突発的に発生したのでなく、震災以前から、朝鮮人に対しては酷いことをしても良いと考える人達が多数いて、その上で「朝鮮人に対して散々酷い事をして来たから

仕返しされてもおかしくない」と強い不安が恐怖に変わり、それが暴発してしまった結果なのだろう。

つまり、朝鮮人に対する根強い差別があったからこそ、ここまで残酷な行為を行うことが出来たということだ。日頃から差別の根を潰しておかないと歴史は繰り返す恐れがあるのだ。

では、昨今の日本の状況を考えてみよう。



右写真：石垣のりこ立憲民主党議員が質問で使用した資料。恩赦に関する閣議決定文書

2010年代に各地で行われていた在日コリアンに対するヘイト街宣はヘイトスピーチ解消法や川崎市の罰則付き条例制定などで下火にはなった。しかし、未だにSNSなどでの差別投稿はなくなっていない。中国人に対してSNSでは韓国、朝鮮人と同じような書き込みが未だに繰

り返されている。

これはこれで心配ではあるが、今この瞬間で考えるとクルド人に対するヘイトが最も心配である。ご承知の通り、SNS上だけでなくクルド人差別はクルド人が集住する川口市でリアルに行われるようになってきている。クルド人差別は地方議会にも波及しており、一部の地方議員が議会に意見書を提出するような事態にまでなっている。

このような差別と分断がある中で首都直下地震などが発生したら、百二年前の悲劇が繰り返されてしまうのではないだろうか。

だからこそ、政府の責任で百二年前に日本人が引き起こしてしまった朝鮮人虐殺がなぜ起こってしまったのかを検証することが重要なのだ。それが朝鮮人虐殺のような悲劇を繰り返さないことにつながるのではないだろうか。

私は被害者を出したくないのはもちろんだが、それ以上に日本人を加害者にしたくないのだ。日本国や日本国民に誇りを持つからこそ、過去の過ちを認め反省できる国民でありたいと考えるのだ。





小生、このたび大先輩お二人に同行し、明慶先生の工房そして美術館を訪ねる機会を得ました。

令和六年秋、京都の市街地を抜け、木々の葉も色づき始めた細い山道を車で進みます。小一時間も走った頃、大きな倉庫のような建物が現れ、ようやく目的地に到着しました。

まずは工房で仏像制作の現場を見せて頂きました。ここでは明慶先生の二代目である明観先生にお話を伺いました。台座、光背、仏像本体などそれぞれの職人の技術や得意分野を活かせるように分業し仏像制作をされています。昼過ぎにもかかわらず作業場所はどこも薄暗く、明観先生は「明るすぎると木の凹凸が見えなくなるんですよ」と言い、近くにあった木材を持ち

上げ光量を変えながらライトを当てると、強い光を当てた時と比べ弱い光の時には「凹凸が明暗として見える」ようになりました。「木の種類や状態によって硬さも変わってきます。自分が見ている場所をしっかりと見ることができないといけないですね」と説明を頂きました。

次に大仏制作を行っている背の高い建物へ移動しました。そこには制作中の丈六を超える不動明王があり、その大きさに見学者がそれぞれ圧倒されます。ここでも明観先生のお言葉を頂きました。

「先輩後輩の二人一組で木の管理を行います。まず先輩が採寸し、次は後輩が技を習得するための検品を行います。お互いのことをよく分かっている者同士でないと意見は言い合えません。木ごろの知れた者同士でないといけません。その選んだ木材をどこに配置するか木づかいをもつて考えなければいけません。木自体の細かな部分を見ないといけないのですが、仏

像全体と作業工程のことまで木くぼりできるようにならないと大仏の製作はできません」

主屋に戻り、明慶先生とお会いしました。テーブルの上には蛙、蜻蛉、飛蝗、蟬のとても精巧に作られた作品が置かれていきます。きれいに彩色された作品を手に取りながら「きれいに作られているでしょう。仏師、彩色職人はこ



もので、今ではワシントン条約の規制リストに入って輸入することはできません。そのため値段はつけられないのです」と話されます。「この香木では仏像を彫られないのですか？」と質問すれば、明慶先生は「木の中に仏様が見えたら彫りましょうか」とはぐらかされました。霊木化現仏「木の中に仏が見える」と

言われる明慶先生の凄みを感じるとなりました。

工房を辞した後、京都御所の西隣にある松本明慶彫刻美術館に向かいました。ここでは明慶先生の三代目になる宗観先生にお話を伺いました。

「この美術館に展示している作品は、よく国内外の美術館の展示会のために貸し出ししています。そのため、貸し出し先から戻ってきた作品を空いたスペースに展示する場合があります。作品名や解説パネルが設置されていないことがあります」



奥の部屋で、また明慶先生に話を伺います。「仏様の前で手を合わせて拝んでみない。そして拝んだ後に仏様の顔を見上げると感じが変わっているでしょう」

明慶先生が手を合わせながら、ご自身の作品の顔を見上げているその姿を見ていると、自分がどこにいるのかわからなくなるような感覚に陥ります。時間と場所の境界が曖昧になり、軽い眩暈を覚えながら、仏像に囲まれた特別な空間で時を過ごすことになりました。

今回、松本明慶先生の仏像や工房、美術館を見学させて頂く中で、仏師とはどのような存在なのかを改めて理解することができました。同時に、彼らの内なる世界がさらにも気づかされました。

## 政権交代前夜 野党が示すべき対抗軸はこれだ！

### 埼玉県新座市 高木 けんすけ

私はLGBT当事者です。今は同性のパートナーと暮らしています。将来は結婚や子育てもしたいと思っていますが、今の日本では愛し合う人が同性というだけで、そんなささやかな願いすら夢のまた夢です。

私は立教新座高校出身です。系列の立教大に進学することは早くから確定しており、大学受験がない分、何を学んで将来どのような仕事をしたいのか考える時間が多くありました。私は子どもの頃から旅行が大好きで、もともとはホテルや航空会社、旅行代理店などで働きたいと考えている学生でした。ちょうど立教には全国的に珍しい観光学部が設置されており、漠然と「自分は観光学部に進学して旅行に携わる仕事に就くのだろう」と思いながら高校生活を送っていたことを思い出します。

そんな中、部活の先輩と交

際することになりました。私にとつて初めての「彼氏」です。同性との恋愛経験に乏しくまだカムアウトしていません。同性に対して、先輩は高校生ながらLGBT当事者のコミュニティにもよく顔を出していました。

先輩に連れられてコミュニティに参加し悩みや不安を話す中で、日本の政治や行政がいかに画一的なのかという問題意識を抱きました。同性愛者には結婚の自由が認められておらず、また異性愛者で



あっても様々な事情で法律婚ではなく事実婚を選択すると

多大なる不利益を被ります。選択的夫婦別姓も未だに認められていません。外国の方とともに生活する世帯もどんどん増えてきていますが、制度が追いついていないのが実態です。

この社会を根本から変えなければ、大好きな旅行も心から楽しめない人生になってしまふのではないかと。そして何よりもこれから生まれてくる当事者には絶対に同じ思いをさせたくない。その気持ちに日に日に強くなり、いつしかぼくの目指す進路は「政治」へと変わっていました。

もともと全国を旅する中で日本のまちづくりや地域振興には強い問題意識を持っており、政治の立場からそうした問題にも取り組んでいければ良いと考え、大学進学は当初志望していた観光学部ではなく法学部政治学科を選択しました。

政治学科ということもあり、入学直後から国会議員インターンの勧誘を受けます。ちょうど高校と大学の先輩にあたる民主党の参議院議員の事務所がインターン生を募つ

ており、私はその事務所に入ることになりました。その議員は法務大臣経験者で法曹出身。LGBTの権利保障について学びたかった私にとつてうってつけでした。



時は第二次安倍政権の全盛期。各級選挙では自民党が連戦連勝し、議場は見渡す限り自民党だらけ。そんな政治状況下で、LGBTの問題にとどまらない、もっと根本的な問題意識を抱くようになりま

す。それは「日本の政治は強い人の立場に立つて行われている」ということです。そしてLGBT当事者が置かれてくる苦境はその氷山の一角に過ぎず、あらゆる分野のマイノリティが同じような思いを強いられているのだというこ

とに気がつきます。

性的指向、性別、性自認、人種、民族、社会的身分、職業、門地、年齢、病歴。日本には様々な人が存在し、ひとりひとりによってこの国は成り立っています。しかし、今の日本は政治が定めたモデルケースから少しでも逸脱してしまうと、途端に生きづらくなってしまう。これは変えなければなりません。

もっと価値観を広げ、包摂社会を作っていく。どんな生き方を選んで、政治が肯定しそれを全力で支える。私はこうした日本に変えていきたいと思っています。そしてこれこそが最も自民党が苦手としており、国政の対抗軸に設定すべきであると私はかねてから考えています。

今回はそのために打ち出すべき具体的な政策をお示しできればと思います。

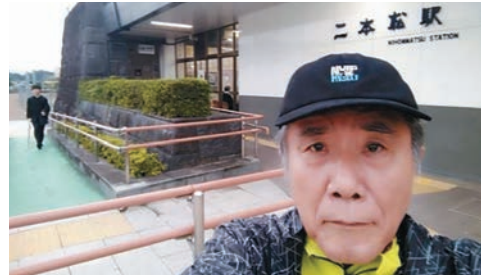


高木けんすけ氏

## 埼玉・宮城路線バス乗り継ぎの旅

### 鋼鉦物技師

埼玉県所沢市  
田口 重久



私は約50年間にわたり技術コンサルタントとして海外のダムや水力発電所の建設などに関わってきた。世間ではとくに定年の歳ではあるが、特殊な分野（技術）に携わってきたせいも、いまだに短期の海外出張を頼まれることもあり、人生を退屈することはない。とは言っても日本での余暇は十分過ぎるぐらいあるので、日々「おもしろいことをやりたい」に挑戦している。今回思いついたのは「埼玉県所沢市（自宅）から妻の実家である宮城県丸森町

へのバス旅」である。

### 旅の条件として

起点となる駅までは列車を使うが、起点駅からすべてローカル路線バスを利用する。また路線バスの路線が離れている場合には自転車か徒歩で移動する。自転車は輪行袋に詰めた折り畳み自転車を利用した。

具体的にはできる限り所沢から日帰りでできるように、この約三百キロメートルのバス旅を以下の七区間に分けた。

- ① 所沢から茨城県古河市
- ② 古河から栃木県石橋駅
- ③ 石橋から栃木県矢板駅
- ④ 矢板から福島県新白河駅
- ⑤ 新白河から福島県本宮駅
- ⑥ 本宮から福島県二本松駅
- ⑦ 二本松から宮城県丸森町



上記区間から特に印象に残った旅「本宮から福島県二本松駅まで」をお伝えしたい。

本宮駅を起点とする同コミュニティバスは最初から最後まで乗客は私一人。このバスの終点手前の本宮関根から傘を差しつつ旧奥州街道を北上した。

二本松市と大玉村の境は低い峠になっていて、東北本線はここで下り線が山を開削した場所を通り、上り線はトンネルとなっていた。地形から見ると上り線が後で建設されたものであろうと思われる。運動不足と加齢とで杉田駅付近で足がすり始めたので小休憩をとった。本宮からここまでの間の街道沿いには柿がたわわになっていたが、誰もそれを取らないところを見ると

渋柿だったのだらう。杉田駅を過ぎしばらく進むと四号線との立体交差があり、ここでは旧奥州街道から四号線に直接登れない構造になっているので、その手前から横につけられ

た歩道を進んで、昼食・大休止のために二本松ドライブインへ。東北縦貫道ができるまではさぞかし繁盛したと思われる古いドライブインであり、

高速道路の開通でトラックドライバのお客が減ったのだから。客は地元の人ばかりだった。

ここから新築の住宅地を抜けて東北本線下のカルバートを通り、ようやく正法寺バス停までたどり着いた。バスの時刻まで時間があつたので、バス停前の自家製造の和菓子屋「増田屋」で大福を求めた。

店の主人と話をしているうちにうちとけたのか、賞味期限が近くなっている大福やまんじゅうを頂いてしまった。

この店は二本松の郊外の田舎の集落に存在できているのが不思議だったが、二本松市内にはたくさん和菓子屋が見られたことから、文化的に高い地域であることが分かった。

乗車した岳温泉から二本松駅入口のバスは旧奥州街道から駅に少し入った場所が終点。そのバス停の直前が投宿したアーバンホテル二本松であった。一泊二食付きで約一万三千円であった割には料理

が美味しかった。このホテルで「奥の松」や「大七」という日本酒の造り酒屋が二本松にあることを知った。

また、駅近くの市民交流センターで日本画家大山忠作の展示会をしていたので参観してきた。また、智恵子抄に登場する智恵子も二本松出身だ。

以前は本宮から大玉村経由で岳温泉に向かうバスがあつたのだが、過疎化に伴う乗客の減少で現在は夕方に通学バスが岳温泉の手前二キロメートルの馬場平まで行っているだけであり、このバスを使うと山間部を徒歩で進まなくてはならず、クマなどの被害を恐れ平地廻りとした。

七十五歳にしては若く見られる私ではあるが一日十キロメートル以上歩くのは辛い。毎週一回運動をしているのだが体力が劣ってきているのを実感した。さらには十キログラム以上もある折り畳み自転車を背負っての駅構内の移動は、想定以上の重労働であった。しかし楽あれば苦あり、苦あれば楽もありで、この歳になって改めて日本の良さを堪能できたとも言えよう。

## (続)多数決は民主主義か 風と土の民主主義

信州小海町 地域づくりボランティア八峰村

村長 渡辺 均

前79号では多数決と民主主義を考えてみた。今回はそれを少し深掘りしてみる。

日本のムラ(集落)では、ものごとを決める時、寄り合い(集落会議)を開く。老若男女区別なく住民が一堂に会し、コトの是非に意見を述べ合い、全員の納得をもってコトが決められた。ここでは、黒か白か決める方法は避けられた。

理由は、二者択一の決定はムラを二分する上禍根を残し、やがて共倒れを招くという考えが根底にあるからである。これを防ぐために折り合いを付ける。各々が自重を学ぶ。それがムラの暗黙の定めとして守られ、ムラが維持される。

寄り合いは折り合いがつかずまで延々と続けられる。それを熟議と呼ぶ。熟議の場では、コトの是非を判断し、落とし処を見出すために、村長(むらおさ)や長老たちがムラの歴史や慣習を振り返り「あの時はこうした」「この場

合は、こう考えた」等、過去の類例を、とりわけ若者たちに存分に語り聞かせる。こうしてムラの歴史が伝承され、生き抜く知恵も磨かれ、村の文化として積み重ねられる。

歴史はいかなる珍事、難事にも類例を用意しているものである。そこから妥協する人にも、納得の根拠が導かれる。

デンマークでは多様性を尊重し、異なる見解をいかに調整するか、幼い頃から自分の意見を述べ、他人の意見を聞き、お互いの違いを理解し、調整を図ることが日常生活の場や職場などで実践される。特に教育の現場では、自他の主張を尊重しつつ、一致点を見出す教育法がグループワークを通じて行われている。ここでは、多数決でコトを決める、という事態は生じ難い。多数決に依らないことが、教育の本旨であると考えているからだ。それでも、多数決は

時に実施されるが、そこに至る衆議のプロセスが対立を緩和する。

このような考え方は、デンマークが歴史的に周囲の大国に翻弄され、存続に向け妥協を余儀なくされる中で、自他の主張を調整することで生き延びてきたという歴史に学んだ知恵ではないかと思う。

日本のムラの衆議一致の採決方法は、繰り返すが、ムラを二分しないために維持されてきた。農・林道、里山や用水など、生業を維持する基盤整備や維持管理は、ムラが一体だからこそ成り立つ。衣食住はもとより、医療や介護においてでも、イエ(家)があり、向こう三軒両隣があつてムラがある。互助の複層的な体制のおかげで維持できるのだ。特に顕著な取り組みは、学舎の建築のためにムラが出資したことである。余談になるが、今、児童生徒数の減少で学校の統廃合が盛んだ。しかし廃校はムラの崩壊を一挙に導く。ムラは、小学校の存続と車の両輪関係にあることを強く訴えておきたい。

生業と暮らし、次世代育成

の役割が、市町村に代替されるようになり、ムラを支え、東ねるじん帯(縛り)が解け、折り合いをつける習慣と知恵が失われた。市町村では(特に戦後の民主主義の啓蒙、普及の中では)、多数決がそのまま民主主義であるかのように受け止められた感が否めず、デンマークと彼我の差を生んでいる。

かつてムラでは「相統で田を分けると家は滅ぶ」と言い伝えられた。バカ者のことを「たわけ者」と呼ぶのはそのためだ。今、田畑は分けようがないほど荒廃している。ムラという共同体が育んできた支え合いの地域構造や、多様性に折り合いを付け、妥協点を見出そうという衆議一致を導く知恵の喪失が背後に横たわっているように見える。ここでは、皆が皆へたわけになってしまったようだ。

最後に、玉井袈裟男著詩集『風のノート』の一節を借りて話を締めたい。

「風は遠くから理想を含んでやってくるもの、土はそこにあつて生命を生み出し育むもの、君が風性の人ならば、

土を求めて吹く風に成れ、君が土性の人ならば風を呼び込む土になれ、土は風の軽さを噛み、風は土の重さを蔑む。愚かなことだ。風は軽く涼やかに、土は重く温かく、和して文化を生むものを」



左写真：故・玉井 袈裟男～農学者、信州大学名誉教授  
右写真：風土會創立宣言の石板(この稿の詩が刻まれています)～博石館(岐阜県中津川市)

造物主からの伝言 ―その七―

## 笑いの効用

北里大学名誉教授 馬淵 清資



## 笑う門には福来たる

年賀状の決まり文句に使われるこの諺の由来は福笑いとのことである。崩れたお多福の顔を見て皆で笑いあう正月遊びである。

上手くないかないことを笑い飛ばせば、心が軽くなる。そこには、福を呼ぶための知恵がある。羽子板遊びで、打ち損ねると顔に墨を塗るのも、同じ仕掛けである。



福笑い

こうした遊びにまつわる笑いは、参加すれば必ず発生する事象なので、失敗を辱める

嘲笑ではない。何かがはじけたことをきっかけにもたらされる明るい笑いである。

岐阜の金華山のもとに、名和昆虫博物館という私設の博物館がある。その先代館長、名和秀雄氏が、市民講座で語っていた話。

「みなさんはゴキブリを目の敵にしているけれど、彼らが太古から住んでいた美しい森に人間が後からやって来たのであって、彼らが汚れているのは、その人間達がまき散らしたゴミのためです。その上、糞尿にたかるハエや、血を吸う蚊と違って、ゴキブリはきれいな好きなので、病気を媒介しません。むしろ、彼らに向かって撒く殺虫剤の方がよほど危ない。

なに、あの見た目がいやだって？ じゃあ不細工だと

スリッパで叩き潰されるのか。それならこの会場で何人生き残れるのかな」

不思議と会場は笑いに包まれる。

「ゴキブリを嫌う」という難攻不落な常識に挑んで、聴衆を巻き込んだ自虐の笑いで一本を取る。まさに、名和先生の面目躍如だった。

日頃、ヒトは、理性に行動を支配されている。理性は、将来に対する不安や恐怖を心に描いて、その危険を防ぐ方法を編み出す力でもある。しかし、動機が悲観的で、理性が働く際には、常に精神緊張を伴い、辛いと感ずる。たとえば、受験勉強。スマホで遊びたいと思うのも、それを止めて勉強しなさいと命じるのも、自分自身である。その葛藤が、辛いと感ずられる。理性のスムーズな働きが、なんらかの理由でつまづくと、その瞬間に、根底にあるネガティブな感情が消える。「福笑い」で変な顔ができるとき、ゴキブリに対する嫌悪感が、我が身に降りかかったとき、バナナの皮で転んだ

とき、早口言葉がうまく言えないとき、など。そうした瞬間に、心が理性の呪縛から逃れる。その開放感が、笑いをもたらす。

## バナナの皮は最終兵器？



笑いの効用について、科学的、特に医学的な研究が、たくさん行われている。免疫力が増す。脳が活性化される。血糖値を下げるといった、多くのデータが示されている。しかし、笑いという行動から、そうした効果までの道筋は、示されていない。一方、理性からの解放に伴う笑いは、精神的なストレスをなくすのだから、それが、生理的な機能を

を改善するのは当然である。病は気から、なのだから。そして、そうした笑いは、福を呼ぶというより、笑いそのものが、「福」である。

なお、笑いには、さまざまな種類がある。嬌笑、苦笑、失笑、嘲笑、冷笑などである。こうした笑いは、いずれも、ネガティブな感情の発露で、しかも、理性が関与した作り笑いである。よって、楽しく愉快な感情の発露で笑うときのみに、ストレスの解消という効用がもたらされる。理性を持たない動物や植物は、精神のストレスを感じない。そのおかげで、ヒトがあこがれている平穏な暮らしを、簡単に実現している。当然、彼らには笑いは不要である。理性という禁断の木の実を食べた人間のみに、笑いによる救いが、必要なのである。プーチン大統領は、昨年末に行われた記者会見で、「戦争であなたは変わったのか？」という質問に、「ほとんど笑わなくなった」と答えたそうである。彼自身、自ら始めた戦争による不幸な犠牲者の一人なのである。

## 幕末の会津藩主が

## その生涯を悔やむ(下)

松平肥後守容保かたもり独白

わしは徳川宗家幕府の命を受けて新設された守護職を受けて京都の治安に当たっていたことは前号79号で読者の皆さんに聞いていただいた。

その為に薩摩・長州の恨みを買って15代慶喜將軍が禁欲した故に、薩長の矛先がわし容保を向けられ「会津藩・庄内藩を朝敵」とされた。わしは勤王の志篤く、孝明天皇の信頼も厚くお上の御宸翰の手紙や御製の和歌を賜った。わしは終生肌身離さず持っていた。そのわしを奴らは朝敵とは！



松平肥後守容保

わしの守護職時代の鳥帽子・出陣姿の写真は読者の皆さんにも見覚えあるが、我ながら凛々しい姿であって、宮中に参内したおりに女官

たちに噂されたものであるぞよ。

東北諸藩が奥州越列藩同盟を結成して我が会津を助けて戦ってくれたが次々と敗れ脱落していった。明治元年8月25日に会津籠城戦が始まり9月22日に総督板垣退助殿の勧めに応じて降伏するまで我が会津藩士はよく戦ってくれた。

藩境の母成峠を突破した維新軍は白虎隊などを追って城下に殺到し、城下から郭内に突入しようと甲賀門で激しく戦った。鬼と言われた佐川官兵衛らは城外で遊撃軍として、その城外では『なよたけの歌』で知られる中野竹子らが娘子（ジョウシ）軍を率いて奮戦してくれた。

新撰組の土方歳三や幕臣の大鳥圭介らは城内で勇戦した。わしの義姉で先代容敬（カタタカ）の養女御姫は婦女子の総指揮に当った。大河ドラマで綾瀬はるかさんが八

重の桜として戦い、城を退去する前夜に鶴ヶ城への想いを明日の己の身を歌に託して壁面に記している。後に山本八重は夫・新島襄と共に同志社大学を創立したそうなの。

48歳で東京帝大総長を歴代最長の11年務めた山川健次郎も我が会津藩士だ。会津は濠内に一兵も入れていないが庄内藩以外は全て降伏し、反撃の見込みが完全に断られたため降伏した。降伏に際して家の老の菅野権兵衛は責めを一手に引き受け切腹した。維新軍の総督板垣殿も『降伏したる上は等しく臣民』とわしらを労わってくれたことに、君臣民も等しく土佐に感謝の念を禁じえなかった。

現在の会津人が『先の戦争』と言えば、太平洋戦争ではなく今でも戊辰戦争のことを言うくらいに薩長を恨んでいて、1986年長州の萩市が、会津若松市対して「もう120年も経ったので」友好都市締結を申し入れたが、会津若松市は「まだ120年しか経っていない」として拒絶したそうなの。それは後年「会津藩士や歴史家が薩長憎しの

雰囲気を観光地化の一環として助長した」との説もある。

逆に会津の民は、我が藩の重税と圧政もあって「旧会津藩士の処遇には関心が無かった」とも言われるが。それに、大河ドラマ『八重の桜』では萩側は「実戦には殆ど参加してないのに、長州兵が鬼の如く突入していた」と怒っていたとか。はてさて歴史はいつまでも続き、また後世に塗り変えられるものかな。

会津鶴ヶ城～手前が登城口  
(2023年3月16日撮影)

令和の今、会津鶴ヶ城は訪ねたい城の5番目に入るとかで東日本唯一の観光客がふれる城だそうなの。先年改修された赤瓦の天守閣は、城下の各所から望まれて我ながら華麗な天守だ。尤もわしの頃はこんなに奇麗で立派ではなかったが。

それに籠城戦では、東南の小田山から砲撃され、天守は見ても無残な姿になり、明治7年に天守台のみ残って取り

壊された。会津人の熱意で昭和40年に再建された。3世の天守を見知っているわしは、今の天守を隔世の感で観ている。会津と鶴ヶ城は歴史とロマンの町として200〜300万人の観光客を呼んでいるそうなの。

わしは多くの家臣らを犠牲にして生きながらえたが、籠城戦が観光スポットとして寄与していると自らを慰めている昨今だ。ああ、多くの家臣や婦女子そして幼子までわしのために殉じてくれた。彼らの最期を思うたび、戊辰戦争後も生き延びたわしは、自身の最期を迎えるまで、ただただ悔恨と彼らへのやるせない思いで鬱屈とした日々を送っている。

1960年6月16日の天守台内部～  
向こうが現在の登城口になる

会津は中世時代より奥州への玄関で戦国前期の葦名家三代の墓所が小田山の麓にひっそりと。近江生れの名将蒲生氏郷の立派な墓は市内中心部。息子の秀行は、蒲生騒動で宇都宮に左遷後30万石で会津に復帰後、若死で市内弘真院の霊廟。周りは子供らの遊び場。佐幕派だった故に県都は福島になった。

## 会津・容保・西郷邸と私の想い

原野 通有

中学1年時の担任が授業中に会津の話と白虎隊吟を吟じてくれた。それより先に父母と会津籠城戦の映画を見ての帰り「壮年の藩士隊を遠くの守りに就かせたのが失敗」と父の言葉。

最初の会津は埼玉の高1年時で60年安保直後の修学旅行だった。爾来何度来たことか。一人で飯盛山から鶴ヶ城を望み、近藤勇の墓を詣でた。五色沼の深い雪中を歩いた。かつて夜行で帰京した駅舎は田舎風だったが、今は駅前も整地され、ビジネスホテルが並び、そこが私たち家族



西郷邸跡に建つ案内板

いざだどらまし 死出の山道  
上旬 細布子(たい、こ) 十六才  
手をとって 共に行きなば迷はじよ  
下旬 瀑布子(たき、こ) 十三才

↑案内板の最後に記載  
いかなる思いで死出の  
山道をたどったことか。  
涙を誘う『辞世の句』

の宿所にもなった。宿所と言えば、高1年時の小恥ずかしい思い出がある。東山温泉で川向うの女湯を皆で騒いだ。その後訪ねてもその旅館はなかった。訪れる人は少ないがその手前に松平家の墓所に容保も眠る。鶴ヶ城はまとまった城址である。西郷頼母邸跡を尋ねて北出丸から本丸に入る。天守を後にして赤い廊下橋を渡り、二の丸から回って、そして、また蔵之内櫓から西の丸に戻るのも、往時を偲べて楽しい。会津は城下町の趣も残り、猪苗代湖畔で生まれた野口英世の記念館と英世通も生まれた。会津坂下町にある春日八郎記念館前の公園では彼の名曲が流れる。途次中野竹子が眠る法界寺の墓地で手を合わせた。容姿端麗の才女(21歳で討死)であった。涙橋付近で討たれた薙刀も残っている。人口11万の会津地方は私の懐かしい心のふるさとでもある。

## 余録

今号80にSNSの事象と関連して兵庫知事の話が出たので寄稿してもらいました。以下、読者の投稿です。

私はテレビ、神戸新聞、ヤフーニュース、ユーチューブからの情報しか見聞きしていません。その範囲で感じることは次の通りです。

斎藤さんは落下傘知事として着任し、改革を進めたようです。それが旧来の副知事から知事と繋がる「県政のぬるま湯につかった組織にショックを与えた」のは事実のようです。県庁建て替えの問題、天下りの問題等それなりに実績を上げていたようです。

しかし、ことの発端は文書問題です。それが解決しないまま、今回の選挙問題です。詳しくは分かりませんが、百条委員会で分かったことと、斎藤知事が言っていることに差があると感じています。

例えば、県民局長の処分も部下から「調査委員会(?)の結果を待ってから結論を出すべし」と進言された証言があるけれども、知事は聞いていないと言っている。また「車から20m歩かされて大声で叱責した」件は、強い調子で「車の通る道を確保すべきと注意した」と言っていたが、選挙後半では街頭演説で「20m歩かされたくらいで誰が怒りますかね」と言い、皆さんの笑いを誘っていた。知事になるつもりがない立

花氏が斎藤氏を応援したことも当選の原動力になったと思います。これは酷いやり方だと思えますが、折田楓氏も含め、訴訟にもなっていますので、いずれ決着がつくことでしょう。

あの立花氏はあちこちの選挙を滅茶苦茶にしていますね。斎藤知事は本当のことを言っていないと思います。都合の悪いことは聞いていない、弁護士に任せているなどと逃げの一手です。人間性がきらいです。スポーツジムに行ったり時など反斎藤派である菅野完さんのユーチューブをよく聴いています。さらにはもう一人、反斎藤派ジャーナリストのユーチューブも聴きます。しかし、いずれにしても何が本当かよく分かりません。

## 編集後記

集部内で掲載に異論が出ました。

同氏が2016年に報じられた「タクシー内わいせつ疑惑(不起訴処分)の当事者作品を掲載すると(女性)読者の反感を招く恐れからです。一番避けたいのは「そんなタウン誌はもう読まない」と無言で敬遠されることです。

小誌としては同氏の原稿が当誌の趣旨に合うものなら、ある程度の反発も予見し、掲載に踏み切ることにしました。氏は既に議員辞職されており、9年前の事件をいつまでも尾を引くべきでないと思うからです。ご批判あれば遠慮なく当誌にお寄せ下さい。

# 首都を襲う巨大水害対策 地方創生・防災省に期待

お江戸の舟遊び瓦版発行人  
**中瀬 勝義**

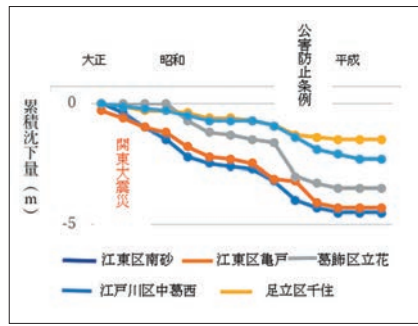


令和6年元旦、能登半島地震が今までにない新たな巨大災害をもたらした。改めて、地域特性に沿った防災対策が必要であることを痛感させられた。

百年前の関東大震災は10万人の方が亡くなり、江東地区は焦土化した。復興には東京市民220万人に対し60万人が疎開する中で進められた。その後、工業化が進み、地盤沈下が起こり、マイナス地域になった。地球温暖化による台風大型化、また首都直下型地震が危惧され、荒川氾濫の危険性が迫っている。地域住民250万人の生活崩壊の大惨事が危惧される。石破総理は、地方創生、防災省を大きな柱と考えている。ぜひ災害大国から防災大国への道を開いて欲しい。

**1. 江東5区最大の課題―江東5区マイナス地域が発生**  
関東大震災以降工業化が進

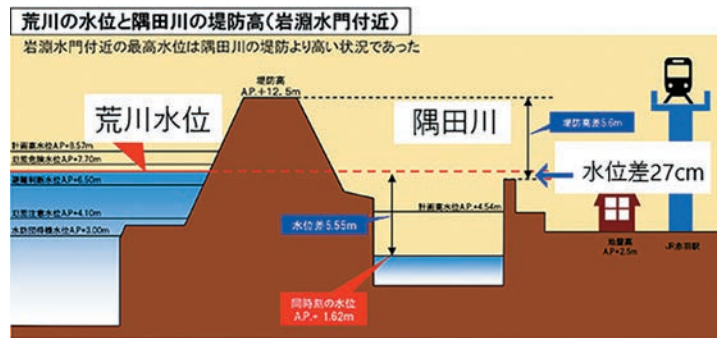
み、工業用に地下水を揚水し続け、メタンガス採取も加わり、揚水が拡大し、地盤が沈下し続け、海面下最大3〜5mのゼロメートル・マイナス地域が発生した。沈下は公害防止条例で停止した。関東大震災時には家屋の倒壊と火災が中心だったが、現在は「ゼロメートル・マイナス地域」が、最大の災害課題だ。(左図参照)



## 2. 最近の荒川の水害

最近、台風が大型化し、2019年台風19号では荒川が決壊寸前になった。東日本の総降水量が500mmを超えた。荒川の水位が高くなり、隅田川の堤防の天端より高くなった。幸い荒川から隅田川への岩淵水門を閉じたため、東京の洪水は免れたが、上流では大水害になってい

る。(左図参照)



## 3. 江東5区広域避難推進協議会ハザードマップ

江東5区広域避難推進協議会は広域避難を推進するため、ハザードマップを作成し、「ここにはダメです」「浸水のおそれがないその他の地域へ」と示すが、避難場所や避難ルートは示されず、自己責任で避難しなければならぬ。

**4. YouTube動画「荒川下流河川事務所「荒川氾濫」**  
「荒川氾濫」は、氾濫を自

分事としてイメージできる貴重な動画だ。北区で荒川が堤防決壊すると、洪水は1時間後に町屋駅に達し、洪水は地下鉄内に侵入し、地下鉄の中心を流れ、12時間後には大手町に達し、霞が関やオフィス街が機能不全になると予想されている。マイナス地域の地下鉄は大変危険だ。

**5. 水害避難支援システム**  
3・11東日本大震災では、巨大津波が大きな防潮堤も超えた。

高い防潮堤で津波から人々の命を守ることができるとされてきたが、ハードだけでは難しく、ソフトな避難支援システムが必要となってきた。先進地三重県では台風時に街中から山に逃げられるルートについてARを活用してスマホで示す「水害避難支援システム」研究を中央大学有川研究室が進めている。浸水予測シミュレーションを行い、避難場所への誘導ルートを選定し示している。三重県では避難場所を選定できるが、江東5区のような平地では難しいと思われるが、マンションや集合住宅、オ

フィスビルの江東5区でできないことはない。

## 6. 地方創生・防災省に期待

1755年リスボン大地震で首都リスボンは90%崩壊し、当時の世界覇権国ポルトガルはその後覇権国には立直れなかった。首都圏のマイナス地域も水害で、同様なことが予測される。一極集中し過ぎた首都東京を徐々に人口減少させ、過疎化が進んだ地方に移住することが可能ならば、南海トラフ地震や首都直下地震が襲来しても、日本が崩壊してしまふようなことから免れることが可能となる。

現在、耕作放棄地は埼玉県面積を超えている。日本は広大な海(海の面積は世界第6位)に囲まれた自然豊かな国であり、狭い国ではない。

外国資源に依存した工業中心主義から農林水産業・製造業・地域の土建業をベースにした循環型日本、海洋観光の国を夢見たい。地方創生と防災省創設を柱の石破首相に期待したい。

## 「資源のない国から自然豊かな国へ」